

国立国語研究所学術情報リポジトリ

副詞“全然”研究のための主要文献目録

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 共同研究プロジェクト「近現代日本語における新語・新用法の研究」 公開日: 2025-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新野, 直哉 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000487 |

副詞“全然” 研究のための主要文献目録

初版 2014年3月28日公開
2015年3月30日増補
2016年3月30日増補
2017年3月30日増補
2018年3月30日増補
2019年3月29日増補
2020年3月30日増補
2023年3月30日増補
2025年3月28日増補

*はじめに

この目録は、副詞“全然”に関する主要な文献の情報を収集・整理したものである。この副詞、特にその呼応に関しては、国語教育や日本語教育関係者、さらに一般社会の関心も高いが、それゆえに言及する文献は幅広い分野にわたり大量に存在する。そのため、先行研究の全体像の把握が困難であった。そのような状況の解消に貢献できるものである。

主要な文献は極力収集するよう努めたが、掲載すべき文献の遺漏もあろうと思われる。今後定期的に更新したい。文献収集に携わったのは、国立国語研究所共同研究プロジェクト「近現代日本語における新語・新用法の研究」のメンバーである新野直哉、橋本行洋、梅林博人、島田泰子、鳴海伸一の5名であるが、最終的な目録の作成は、新野が他のメンバーと意見交換のうえで行った。文献収集には、多くの先行文献の恩恵を受けた。ここに感謝の意を表したい。

*利用上の注意

- ・文献の掲載は発表年順。同年の文献は、著者名の五十音順。同年に同著者の文献がある場合は、発表月の早い順。同月の場合は、文献名の五十音順。
- ・データの掲載順は以下のとおり。
著者名（発表年）「文献名」『掲載図書・雑誌名』巻（号） 掲載ページ 発行所
- ・「文献名」は、「1 雑誌論文・論文集論文」以外では、単行本の中の一章・一節、あるいは小見出しのついた一部分というレベルの場合もある。
- ・いわゆる「ハウ・ツーもの」の図書・記事、国語辞書類、新聞記事、インターネット上のみの記事は除いた。また、“全然”に短く言及する程度の文献は、研究史上重要と思われるものを除き掲載していない。

1 雑誌論文・論文集論文

宮内和夫（1961）「「全然」の改新—「とても」にふれて」『実践国語教育』247 7-13 穂

波出版

- 大石初太郎 (1974a) 「田山花袋の用語二題」『専修大学人文科学研究所月報』32・33 8-12
専修大学人文科学研究所
- 大石初太郎 (1974b) 「田山花袋の初期口語体小説の文章（下）—数個の観点から」『専修
国文』16 47-72 専修大学国語国文学会
- 柄沢衛 (1977) 「「全然」の用法とその変遷—明治二、三十年代の四迷の作品を中心として」
『解釈』23 (3) 38-43 教育出版センター
- 松井栄一 (1977) 「近代口語文における程度副詞の消長—程度の甚だしさを表す場合」松村
明教授還暦記念会編『松村明教授還暦記念国語学と国語史』737-758 明治書院
- 足立広子 (1990) 「副詞「全然」の用法について」『南山国文論集』14 37-46 南山大学国
語学国文学会
- 若田部明 (1991) 「「全然」の語誌的研究—明治から現代まで」『解釈』37 (11) 24-29 教
育出版センター
- 鈴木英夫 (1993) 「新漢語の受け入れについて—「全然」を例として」松村明先生喜寿記念
会編『国語研究』428-449 明治書院
- 播磨桂子 (1993) 「「とても」「全然」などにみられる副詞の用法変遷の一類型」『語文研究』
75 11-22 九州大学国語国文学会
- 若田部明 (1993) 「「全然」の語誌的研究Ⅱ」多々良鎮男先生傘寿記念論文集刊行会編刊『多々
良鎮男先生傘寿記念論文集』184-173
- 梅林博人 (1994) 「副詞「全然」の呼応について」『国文学解釈と鑑賞』59 (7) 103-110
至文堂
- 遠藤織枝 (1994) 「使用語種と、新しいことばの用法」『ことば』15 114-134 現代日本語
研究会
- 梅林博人 (1995) 「「全然」の用法に関する規範意識について」『人文学報』266 35-53 東
京都立大学人文学部
- 遠藤織枝・谷部弘子 (1995) 「話しことばに特徴的な語の新しい用法と世代差—「すごい」
「とか」「ぜんぜん」「けっこう」について」『ことば』16 114-127 現代日本語研究会
- 増井典夫 (1996) 「否定と呼応する副詞と程度副詞についての覚書」『愛知淑徳大学現代社
会学部論集』1 1-9 愛知淑徳大学現代社会学部
- 松浦純子・永尾章曹 (1996) 「「全然」と「全く」について—陳述の副詞についての一考察」
『国語国文論集』26 1-10 安田女子大学日本文学会国語国文論集編集室
- 梅林博人 (1997) 「肯定表現を伴う「全然」の異同について」『人文学報』282 21-37 東京
都立大学人文学部
- 新野直哉 (1997) 「「“全然” + 肯定」について」佐藤喜代治編『国語論究 6 近代語の研究』
258-286 明治書院
- 葛金龍 (1999) 「日中同形漢語副詞「全然」についての比較研究」『愛媛国文と教育』32 22-28
愛媛大学教育学部国語国文学会

- 工藤真由美 (1999) 「現代日本語の文法的否定形式と語彙的否定形式」『現代日本語研究』6
1-22 大阪大学
- 梅林博人 (2000) 「流行語批判とその背景—「全然」の場合について」『相模国文』27 57-70
相模女子大学国文研究会
- 新野直哉 (2000) 「近年の、「全然」+肯定」関係の文献について」佐藤喜代治編『国語論
究 8 国語史の新視点』 215-234 明治書院
- 野田春美 (2000) 「「ぜんぜん」と肯定形の共起」『計量国語学』22 (5) 169-182 計量国
語学会
- 小池清治 (2001) 「「全然」再々考」『宇大国語論究』12 1-11 宇都宮大学国語教育学会*
小池清治編 (2001) 『現代日本語探究法』朝倉書店に再録。
- 有光奈美 (2002) 「否定的文脈と否定極性項目に関する一考察—“not at all” vs. 「全然」
を中心に」『言語科学論集』8 63-80 京都大学大学院人間・環境学研究科
- 葛金龍 (2002) 「「全然」の意味機能について—俗語的用法を中心に」『愛媛国文と教育』35
11-24 愛媛大学教育学部国語国文学会
- 新野直哉 (2004) 「“全然”・「いやがうえにも」再考」『国語学研究』43 167-156 「国語
学研究」刊行会
- 田中一彦 (2005) 「「全然おいしいよ」は問題な日本語か」『言語情報学研究』1 31-42 大
阪市立大学文学研究科言語情報学会
- 葛金龍 (2005) 「「全然」の俗語的用法の発生」『愛媛国文と教育』38 8-22 愛媛大学教育
学部国語国文学会
- 尾谷昌則 (2006) 「構文の確立と語用論的強化—「全然～ない」の例を中心に」『日本語用
論学会大会研究発表論文集』2 17-24 日本語用論学会
- 窪菌晴夫 (2006) 「若者ことばの言語構造」『言語』35 (3) 52-59 大修館書店
- 趙宏 (2007) 「速記資料における「全然」の様相をめぐって—明治から昭和にかけて」『明
治大学日本文学』36 62-56 明治大学日本文学研究会
- 丁允英 (2007) 「中立的な態度を表わす副詞「全然」について—日・韓対照を視野に入れて」
『日本語論叢』特別号 278-291 日本語論叢の会
- 服部匡 (2007) 「大規模コーパスを用いた副詞「全然」の共起特性の調査—朝日新聞と Yahoo!
知恵袋の比較」『同志社女子大学学術研究年報』58 1-8 同志社女子大学
- 岡崎晃一 (2008) 「「全然」考」『親和国文』43 1-21 神戸親和女子大学国語国文学会
- 尾谷昌則 (2008) 「アマルガム構文としての『「全然」+肯定』に関する語用論的分析」児
玉一宏・小山哲春編『言葉と認知のメカニズム 山梨正明教授還暦記念論文集』
103-115 ひつじ書房
- 山内信幸 (2009) 「日本語の強意表現をめぐって—「全然」を中心に」沈力・趙華敏編『漢
日理論言語学研究』 73-79 学苑出版社
- 新野直哉 (2010a) 「「日本語ブーム」と日本語研究」『日本語学』29 (5) 36-44 明治書
院

- 新野直哉 (2010b) 「新聞記事における副詞“全然”の被修飾語について—明治末～昭和戦前期と現在」『表現研究』92 42-51 表現学会
- 服部匡 (2010) 「「全く」と「全然」の使用傾向の変遷—国会会議録のデータより」『総合文化研究所紀要』27 162-176 同志社女子大学総合文化研究所
- 大野裕佳子 (2011) 「日本語のゆれに関する研究」『東京女子大学言語文化研究』19 1-16 東京女子大学言語文化研究会
- 武内道子 (2011) 「命題態度への意味論的制約—「ぜんぜん」をめぐる」武内道子・佐藤裕美 編『神奈川大学言語学研究叢書 1 発話と文のモダリティー—対照研究の視点から』65-88 ひつじ書房
- 新野直哉・橋本行洋・梅林博人・島田泰子 (2011) 「言語の規範意識と使用実態—副詞“全然”の“迷信”をめぐる」『日本語学会 2011 年度秋季大会予稿集』183-188 日本語学会
- 梅林博人 (2012a) 「「全然」再考—迷信、アプレ、前提の否定など」『相模国文』39 71-82 相模女子大学国文研究会
- 梅林博人 (2012b) 「『古川ロッパ昭和日記』における副詞「全然」の用法—言語変化の過渡期における個人の使用実態」『表現研究』96 44-53 表現学会
- 葛金龍 (2012) 「肯定・否定同形副詞に見られる程度性とモーダル性の連続性」『愛媛国文と研究』44 28-35 愛媛大学教育学部国語国文学会
- 柄澤衛 (2012) 「位相から見た「全然」をめぐる—俗語的用法の発生」『ことばとくらし』24 30-41 新潟県ことばの会
- 飛田良文 (2012) 「辞書の正確さとは何か—「全然」の語義について」『ユリイカ』44 (3) 70-75 青土社
- 新野直哉 (2013a) 「言語規範意識記述を日本語史研究資料としてどう考えるか—3 人の研究者の“全然”をめぐる記述を例に」『国語学研究』52 1-14 「国語学研究」刊行会
- 新野直哉 (2013b) 「“全然”に関する国語学者浅野信の言語規範意識—昭和 10 年代を中心に」『表現研究』97 1-10 表現学会
- 新野直哉・橋本行洋・梅林博人・島田泰子・鳴海伸一 (2013) 「漢語副詞の受容と展開—〈漢語の和化〉と否定との呼応」『日本語学会 2013 年度秋季大会予稿集』219-224 日本語学会
- 梅林博人 (2014) 「『古川ロッパ昭和日記』の「とても」「断然」「てんで」「絶対」—否定呼応と言われた副詞の使用実態」『国立国語研究所共同研究報告 13-03 近現代日本語における新語・新用法の研究』22-37 国立国語研究所
- 新野直哉 (2014) 「『青い山脈』(1947) の「全然同意ですな」について—「変な軍隊用語」とは？」『国立国語研究所共同研究報告 13-03 近現代日本語における新語・新用法の研究』6-21 国立国語研究所
- 橋本行洋 (2014) 「「全然」の“迷信”に関する通言語的考察」『国立国語研究所共同研究報告 13-03 近現代日本語における新語・新用法の研究』76-85 国立国語研究所

2 学術図書

- 浅野信 (1935) 『国語の匂ひと韻』 大岡山書店
- 浅野信 (1943) 『俗語の考察』 三省堂
- 佐久間淳一 (2007) 「全然大丈夫？」『はじめてみよう言語学』 23-24 研究社
- 新野直哉 (2011) 「“全然” + 肯定」をめぐる研究『ひつじ研究叢書〈言語編〉93 現代日本語における進行中の変化の研究—「誤用」「気づかない変化」を中心に』 111-215 ひつじ書房
- 佐野真一郎 (2012) 「“全然”の変化を分析する」日比谷潤子編著『はじめて学ぶ社会言語学—ことばのバリエーションを考える 14 章』 227-247 ミネルヴァ書房

3 一般図書

- 金田一春彦 (1966) 「呼応のあやまり」『新日本語論—私の現代語教室』 筑摩書房 『金田一春彦日本語セミナー6 正しい日本語』 (1983) 筑摩書房に再録
- 石山茂利夫 (1990) 「“全然悪い”は全然悪くない？」『日本語矯めつ眇めつ—いまどきの辞書 14 種のことば探検』 33-39 徳間書店
- 小池清治 (1994) 「“全然”についての“迷信”」『日本語はどんな言語か』 8-11 筑摩書房
- 茅野秀三 (1994) 「全然」『言葉のうんちく辞典』 30-31 実務教育出版
- 倉島節尚 (1995) 「言葉の変化と国語辞典」『辞書は生きている—国語辞典の最前線』 30-66 ほるぷ出版
- 石山茂利夫 (1998) 「全然—打ち消しを伴わなければ誤用か」『今様こくご辞書』 118-122 読売新聞社
- 池上彰 (2000) 「“全然悪い”と言うのは全然へん？」『「日本語」の大疑問』 138-139 講談社
- 島野功緒 (2001) 「“とても美しい”は誤用」『誰もがうっかり見過ごす誤用乱用テレビの日本語』 208-211 講談社
- 奥秋義信 (2002) 「全然」『よく使うのに間違っている日本語』 87-95 中経出版
- 小椋佳 (2004) 「全然オッケー」『小椋佳 言葉ある風景』 15-18 祥伝社
- 小林賢次 (2004) 「全然いい」北原保雄編 (2004) 『問題な日本語—どこがおかしい？何がおかしい？』 17-21 大修館書店
- 松井栄一 (2004) 「講演 近代文学と国語辞典 3 “とても”と“全然”について」『「のっぺら坊」と「てるてる坊主」—現代日本語の意外な事実』 237-246 小学館
- NHK アナウンス室ことば班編 (2005) 「全然大丈夫」『ことばおじさんの気になることば』 120-125 日本放送出版協会
- 堀井令以知 (2005) 「合点が行く」『ことばの由来』 87-89 岩波書店
- 小池清治 (2009) 「“全然”の用法」中山緑朗・飯田晴巳・陳力衛・木村義之・木村一編『み

- んなの日本語事典一言葉の疑問・不思議に答える』 40-41 明治書院
- NHK「みんなでニホンGO！」制作班 (2010)「全然OKです」って、全然ダメ?」『みんなでニホンGO! オフィシャルブックー正しい日本語は本当に“正しい”の?』 22-35 祥伝社
- 前田安正・桑田真 (2010)「全然 尻尾にだって役目はあるさ」『漢字んな話』 210-211 三省堂
- 飯間浩明 (2013)「これからの国語辞典」『辞書を編む』 225-261 光文社
- 内館牧子 (2013)「全然オッケー」『カネを積まれても使いたくない日本語』 83-88 朝日新聞出版
- 日本経済新聞社編 (2013)「全然いい」誤用説の起源は?」・「全然いい」誤用説、辞書が広めた?」『謎だらけの日本語』 121-129 日本経済新聞出版社
- 山田敏弘 (2013)「全然おいしい」で霧の中」『その一言が余計です。一日本語の「正しさ」を問う』 90-97 筑摩書房
- 馬上駿兵 (2014)「全然」『文豪たちの「?」な言葉』 7-33 新典社

4 雑誌エッセイ・その他

- 岩淵悦太郎 (1953)「言語時評 流行語」『言語生活』27 45 筑摩書房
- 小堀杏奴 (1953)「思ひ出」『言語生活』18 60-63 筑摩書房
- 浅沼博・岩井隆一・堀川直義・丸野不二男 (1953)「座談会 マス・コミュニケーションと日本語」『言語生活』21 2-16 筑摩書房
- 岩淵悦太郎 (1959)「ことばの変化」『世界』165 217-221 岩波書店
- 岩淵悦太郎 (1970)「言葉の道標2 見捨てられる言葉」『群像』25 (2) 262-263 講談社
*岩淵悦太郎 (1973)『国語の心』毎日新聞社に再録
- 新谷保次郎 (1970)「談話室 漱石の使った言葉」『言語生活』220 70-71 筑摩書房
- 浅田修司 (1993)「ESSAY 日本語の変化」『月刊言語』22 (2) 4-5 大修館書店
- 横林宙世 (1995)「そこが知りたい日本語何でも相談 「ぜんぜんおいしい」は間違いだけど、どう教える?」『月刊日本語』8 (6) 50-51 アルク
- 高島俊男 (1997)「お言葉ですが…89 松井? うん全然いい」『週刊文春』39 (12) 110-111
文藝春秋*高島俊男 (1998)『お言葉ですが… 「それはさておき」の巻』文藝春秋に再録
- 石山茂利夫 (2000)「そこが知りたい日本語何でも相談 「全然大丈夫」はいつから?」『月刊日本語』13 (4) 46-47 アルク
- 阿川佐和子・石井英夫・久世光彦 (2002)「座談会 「家族」の復権はなるか」『諸君!』34 (2) 260-274 文藝春秋
- 小谷野敦 (2006)「上機嫌な私21 「全然～ない」の迷信」『文学界』60 (9) 210-211 文藝春秋*小谷野敦 (2008)『猫を償うに猫をもってせよ』白水社に再録
- 塩田雄大 (2006)「ことば・言葉・コトバ 全然撮ってください」『放送研究と調査』56 (2)

43 NHK 出版

堀井令以知 (2006) 「「全然 OK」でも、全然大丈夫。」『広告』47 (2) 44-48 博報堂

金田一秀穂 (2007) 「心地よい日本語 全然いいのか」『毎日が発見』44 131 角川 SS コ
ミュニケーションズ

田中雅敏 (2012) 「オアシス 古今東西、ことばは変わる」『東洋通信』49 (9) 11-13 東
洋大学通信教育部

根村良和 (2013) 「部長随想 「全然いい」は「全然 OK」」『法務通信』747 2-4 日本加除
出版

*以下、2015年3月増補分

1 雑誌論文・論文集論文

Yamauchi, Nobuyuki (2012) 「English looks at Japanese and vice versa : a contrastive approach to internsifiers in English and Japanese」『文化情報学』7 (2) 1-12 同志社大学文化情報学会

工藤力男 (2013) 「陳述のゆくえ—辞苑閑話・三」『成城文藝』225 35-45 成城大学文芸学部

橋本行洋 (2014) 「「全然」とその振り仮名」石黒圭・橋本行洋編『話し言葉と書き言葉の接点』243-260 ひつじ書房

塩田雄大・井上裕之・滝島雅子 (2015) 「“お赤飯” “ひと段落” “ロケットが打ち上がる” はおかしいですか—2014年「ことばのゆれ調査」から②」『放送研究と調査』65 (3) 38-63 NHK 出版

3 一般図書

竹林一志 (2007) 「あまり問題にしなくてよい若者言葉」『これだけは知っておきたい言葉づかい—時とともに言葉が変わる理由』144-149 笠間書院

水谷静夫 (2011) 「「全然いい」はOKか」『曲り角の日本語』9-11 岩波書店

飯間浩明 (2014) 「「全然支配される」は全然 OK」『三省堂国語辞典のひみつ』35-38 三省堂

加藤重広 (2014) 「漱石が使った肯定文での「全然」」『日本人も悩む日本語』160-163 朝日新聞出版

柄澤衛 (2014) 「「全然」について—用法の変遷」『ことばの小径をゆく』102-138 雑草出版

松井栄一 (2014) 「「全然ある」は、全然ない？」『日本人の知らない 日本一の国語辞典』131-134 小学館

4 雑誌エッセイ・その他

加賀美幸子・金田一秀穂 (2014) 「アナウンサーが気になる日本語」『文藝春秋』92 (6) 312-319 文藝春秋

***以下、2016年3月増補分**

2 学術図書

武内道子 (2015) 「第9章 表出命題態度への制約〈ぜんぜん〉」『ひつじ研究叢書〈言語編〉
128 手続き的意味論—談話連結語の意味論と語用論』173-194 ひつじ書房

3 一般図書

内館牧子 (2015) 「この言葉ヘンでしょ (その二)」「この言葉ヘンでしょ (その三)」『続 心に愛 唇に毒』 45-51 秋田魁新報社

神永暁 (2015) 「ぜんぜん【全然】〔副〕」『悩ましい国語辞典—辞書編集者だけが知っていることばの深層』151-154 時事通信社

文化庁国語課 (2015) 「「全然大丈夫」と言っても大丈夫？」『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』 136-137 幻冬舎

***以下、2017年3月増補分**

1 雑誌論文・論文集論文

井本亮 (2011) 「普通にかわいい」考『商学論集』 79(4) 59-75 福島大学経済学会

任川海 (2014) 「关于汉语和日语的“然”的对比研究」『日语学习与研究』 174 68-76 北京
报刊发行局

鳴海伸一 (2016) 「語史研究の方法」大木一夫・多門靖容編『日本語史叙述の方法』 235-263
ひつじ書房

朴秀娟 (2016) 「完全否定を表す副詞「まるで」「ぜんぜん」「まったく」に関する一考察」
『神戸大学留学生センター紀要』 22 41-57 神戸大学留学生センター

3 一般図書

橋本陽介 (2016) 「Q : 「全然大丈夫」のような矛盾した表現があるのはなぜか。」『日本語
の謎を解く 最新言語学 Q&A』 96-101 新潮社

*以下、2018年3月増補分

1 雑誌論文・論文集論文

- 守田美子 (2011) 「外来語の定着プロセスにおける語用論的要因の役割—新漢語「全然」の通時的意味変化」佐藤響子・井川壽子・鈴木芳枝・古谷孝子・松谷明美・都田青子・守田美子編『ことばの事実をみつめて—言語研究の理論と実証』101-111 開拓社
- 劉時珍 (2016) 「「ちっとも」と「ぜんぜん」の相違点に関する一考察—自己軸と相手軸を立てて」『一橋日本語教育研究』4 77-86 ココ出版
- 阿南香菜子 (2017) 「程度副詞の史的研究—打消を伴う表現を視点として」『東京女子大学日本文学』103 133-153 東京女子大学学会日本文学部会
- 長崎靖子 (2017) 「文学教材における語彙の指導に関して—教材「羅生門」を例として」『川村学園女子大学研究紀要』28 (2) 205-218 川村学園女子大学図書委員会
- 新野直哉 (2017) 「新資料「ひまわり女学生新用語辞典」その紹介と“全然”・「～的」研究への利用」近代語研究会編『日本近代語研究』6 197-213 ひつじ書房
- 新野直哉 (2017) 「平成期『読売新聞』の記事に見られる副詞“全然”に関する言語規範意識」『国語学研究』56 17-30 東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会

2 学術図書

- 米川明彦 (2017) 『俗語入門—俗語はおもしろい!』 3、161 朝倉書店

3 一般図書

- 北原保雄 (2017) 「全然大丈夫—まったく本来の使い方ではない」『じっくりこない日本語』88-93 小学館

4 雑誌エッセイ・その他

- 藤原喜明 (2017) 「組長に訊け! 藤原喜明による人生相談 29 「他人は他人、自分はキチッとやっていけばいい。おかしい日本語に順応する必要はないよ」『週刊プロレス』63 (45) 49 ベースボール・マガジン社
- 壇蜜 (2018) 「今更言葉で、イマをサラッと 3 『全然』『GINGER』10 (4) 168 幻冬舎

*以下、2019年3月増補分

1 雑誌論文・論文集論文

- 小池康 (2014) 「一語文での使用から見たモダリティ副詞の意味—「やきつけ」という観点からの考察」『関東学園大学紀要 Liberal arts』22 1-12 関東学園大学
- 陳澤佳 (2017) 「完全否定を表す副詞に関する特徴分析—量・程度の観点からのアプローチ」『言語と文化』29 37-58 文教大学大学院言語文化研究科附属言語文化研究所
- 新野直哉 (2018) 「平成期『朝日新聞』の記事に見られる副詞“全然”に関する言語規範意識—『読売新聞』と比較して」『国語学研究』57 14-26 東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会
- 武藤紳介 (2018) 「現代日本語における副詞「全然」について」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』14 159-166 東京外国語大学記述言語学研究室
- はんざわかんいち (2019) 「ことばのことばかり 60 全然とても例外ではない」『日本語学』38 (3) 23 明治書院

3 一般図書

- 玄冬書林 (2018) 「「全然」はもともと肯定表現に使われた」『ワンランク上の日本語を習得したい社会人へ』209-210 ワニブックス

4 雑誌エッセイ・その他

- 戸田山和久 (2018) 「とびだせ教養 13 どうやって、居心地のいい洞窟から抜け出すか」『ちくま』565 56-61 筑摩書房
- 神永曉 (2019) 「辞書編集者のウラ話 日本語かくかくしかじか 10 「全然大丈夫」は全然大丈夫である」『月刊教職研修』557 57 教育開発研究所

***以下、2020年3月増補分**

1 雑誌論文・論文集論文

佐々木文彦 (2017) 「文学作品における副詞「全然」の変化について」『明海日本語』22 13-29

明海大学日本語学会

斉藤幸一 (2019) 「第Ⅱ部 日本語配慮表現の諸相 第8章 配慮表現としての「“全然”
+肯定形」」山岡政紀編『日本語配慮表現の原理と諸相』131-145 くろしお出版

富岡宏太 (2020) 「日本語学の活用方法—国語科教育のために」『群馬県立女子大学紀要』

41 127-138 群馬県立女子大学

2 学術図書

新野直哉 (2020) 『近現代語日本語の「誤用」と言語規範意識の研究』ひつじ書房

3 一般図書

飯間浩明 (2019) 「「全然 OK」と言っている？」『日本語をつかまえろ！』160-161 毎日新聞出版

東京新聞・中日新聞 (2019) 「会話の中の『全然』 【とても 全然】」東京新聞・中日新聞編『校閲記者の日本語真剣勝負』102 東京新聞

4 雑誌エッセイ・その他

内館牧子 (2020) 「暖簾にひじ鉄 900 生き物とはいえ」『週刊朝日』125 (8) 36-37 朝日新聞出版

***以下、2023年3月増補分**

1 雑誌論文・論文集論文

大塚貴史 (2020) 「広義全称表現における2つのタイプ—全否定を表す「まったく」と「ぜんぜん」を中心に」『日本語と日本文学』66 101-111 筑波大学日本語日本文学会

塩田雄大 (2021) 「放送用語委員会 ● 第1452回 (東京・リモート開催) 語形・用法について [意見交換]」『NHK放送研究と調査』71 (10) 78-91 NHK放送文化研究所

齋藤優果 (2022) 「肯定文中に現れる副詞「全然」について」『英語学英米文学論集』48 27-47 奈良女子大学英語英米文学会

***以下、2025年3月増補分**

1 雑誌論文・論文集論文

梅林博人（2025）「〈米内海相の「全然」〉に因る混乱一戦後の社説を資料として規範意識にもふれる」『相模国文』52 162-171 相模女子大学国文研究会

4 雑誌エッセイ・その他

伊集院静（2023）「伊集院静の「悩むが花」568 あの震災は私たち日本人に多くの教訓を残しました」『週刊文春』65（13） 46-47 文藝春秋新社

飯間浩明（2024）「日本語探偵94 「全然」の誤用談義 研究史を無視しないで」『文藝春秋』102（6） 307 文藝春秋新社